

大阪狭山市文化財報告書18

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書 9



1999年3月

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市文化財報告書18

**大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書 9**

1999年3月

大阪狭山市教育委員会

序 文

大阪狭山市内には、府の史跡名勝に指定されております狭山池をはじめとして、多くの文化財があります。狭山池ではダム化に伴う調査によって多くの文化財が発掘され古代以来の溜池の歴史が明らかとなりました。

このような調査と併行しまして、大阪狭山市教育委員会では、平成2年度より継続して行っております個人住宅建設に先立つ発掘調査を、本年度も国の補助金を受けて実施することができました。本年度は、狭山藩陣屋跡において発掘調査を行い、貴重な成果を得ることができました。本報告書はこれらの調査結果をまとめたものです。

本書がわずかでも各分野における研究の一助となれば、まさに望外の喜びです。

調査にあたりましては、建築主の皆様ならびに調査地周辺の皆様に多くのご協力を賜りました。厚く感謝いたします。

また、今後とも本市の文化財保護に対する御理解と御支援のほどを、よろしくお願い申し上げます。

平成11年3月

大阪狭山市教育委員会
教育長 岡 本 修 一

例　　言

1. 本書は国庫および府費の補助を受け、大阪狭山市教育委員会が平成10年度国庫・府費補助事業として大阪狭山市内で実施した、個人住宅等建設に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査の結果をまとめた概要報告書である。
2. 収録した各調査は以下の通りである。
 1. 狹山藩陣屋跡：98-1区・98-2区・98-3区
3. 現地調査は、大阪狭山市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課 市川秀之が担当した。
4. 現地調査に当たっては、中原忠明・浦壁晃をはじめとする諸氏の協力を得た。
遺構・遺物の整理作業は調査担当者が主としてこれを行い、また、橋本和美・山崎和子・筑岡祐里子・若宮美佐・南條直子・矢田直樹をはじめとする諸氏の協力を得た。
遺構等の写真撮影は、阿南辰秀・伊藤慎司が行った。
5. 本書の執筆および編集は、市川が行った。

本　文　目　次

序　文	大阪狭山市教育委員会教育長　岡本修一
例　言	
はじめに	1
1. 狹山藩陣屋跡 98-1区	5
98-2区	7
98-3区	7
2.まとめ	12

挿 図 目 次

第1図	大阪狭山市周辺の地形と遺跡分布図	2
第2図	調査区位置図	3
第3図	狭山藩陣屋跡98-1区遺構平面図	4
第4図	狭山藩陣屋98-1区遺物	5
第5図	狭山藩陣屋98-2区遺構平面図	6
第6図	狭山藩陣屋跡98-3区遺構平面図	8
第7図	狭山藩陣屋跡98-3区遺物（1）	10
第8図	狭山藩陣屋跡98-3区遺物（2）	11
第9図	『狭山藩陣屋跡屋敷図』トレース図	13

図 版 目 次

図版1	狭山藩陣屋跡附近航空写真
図版2	狭山藩陣屋跡98-1区 出土遺物
図版3	狭山藩陣屋跡98-3区
図版4	狭山藩陣屋跡98-3区
図版5	狭山藩陣屋跡98-3区
図版6	狭山藩陣屋跡98-3区
図版7	狭山藩陣屋跡98-3区（1）
図版8	狭山藩陣屋跡98-3区（2）
図版9	狭山藩陣屋跡98-3区（3）

はじめに

大阪狭山市は昭和40年代以降に急激な人口増加をみた。近年においては、その頃の勢いは無いとはいえ、住宅開発は引き続き盛んである。また、その頃に建設された木造住宅の建替えや増改築が行われる時期にさしかかっていることもあり、これらに伴う埋蔵文化財の発掘届の提出件数にもほとんど減少の兆しはみられない。この傾向は今後も持続するものと考えられる。特にここ数年は狭山藩陣屋跡において歩道設置が継続的に行われていることの影響もあって、その周辺の住宅の新築、建て替えが多く、その工事に伴う発掘が多い傾向にある。

本報告書においては、本年度に大阪狭山市教育会が実施した、市内における個人住宅建設等に伴う発掘調査の成果を報告する。ただし、狭山ニュータウンなど既に大規模な造成工事を行われた箇所における住宅の新築・増改築に際しては、本市教育委員会は立会調査を行い、これに対応している。立会調査を行った結果、遺構・遺物が検出されなかつた事例も多数あったが、これらについては報告を省略する。

大阪狭山市域の遺跡分布と地形分類は第1図の通りである。本市は読んで字のごとく、西側の泉北丘陵と東側の羽曳野丘陵に挟まれた地形で、この両丘陵の間に幾筋かの南北方向の谷筋が走っている。これらの谷筋から、旧石器時代・縄文時代の打製石器がいくつか発見されている（上野正和『狭山の考古学研究と私』『さやま誌 大阪狭山市文化財紀要』創刊号、1992）。

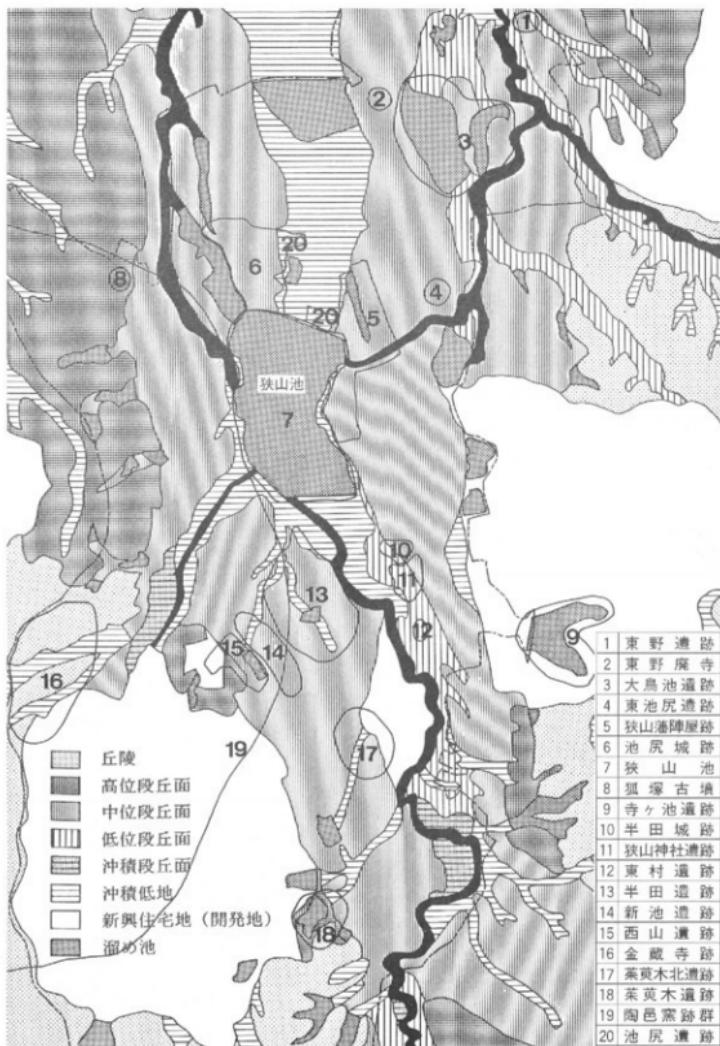
弥生時代の遺跡としては、市域南部の高地において、弥生時代後期の集落跡が検出された、茱萸木遺跡がわずかに知られるのみである。

古墳時代前期についてもいまだ明らかでないことが多いが、狭山池北方の池尻遺跡において庄内期のものと思われる遺構が確認されており、また狭山神社遺跡でも当該期の遺物が出土しており、沖積面における遺跡の分布が予想される（『狭山池』埋蔵文化財編、狭山池調査事務所、1998）。

古墳時代中期に入ると、泉北丘陵を中心にその造営が展開された陶邑窯跡群が東方へとその域を拡大した結果、本市域西端に相当する陶器山丘陵とその北側の高位段丘の斜面に須恵器窯が多く築かれた。古墳時代後期の6世紀中葉～後葉になると、陶邑窯跡群は、さらに東方へとその域を拡大し、本市域の至るところの中位段丘崖に窯を築き、須恵器生産を行う。7世紀前葉～中葉になると、窯焼き燃料である薪や窯を築く斜面が不足したようであり、西暦616年以後に上盛りが行われた狭山池の北堤の外側斜面のような、窯を造営するには不適当な箇所にまで窯を築くようになる。

狭山池の築造については、長らく議論があったが、狭山池ダム化工事に伴って狭山池調査事務所が実施した発掘調査によって、その築造年代は7世紀前半であることが確認された。これらの発掘調査によって、狭山池内において中樋遺構、東樋遺構、西樋遺構、木製護岸遺構などが次々と発見され、狭山地域の歴史像は豊かさをますこととなった（『狭山池』埋蔵文化財編、狭山池調査事務所、1998）。

狭山池が築かれた主谷の東西に広がる中位段丘上に、東野廃寺・池尻城跡・庄司庵遺跡・狭



第1図 大阪狭山市周辺の地形と遺跡分布図

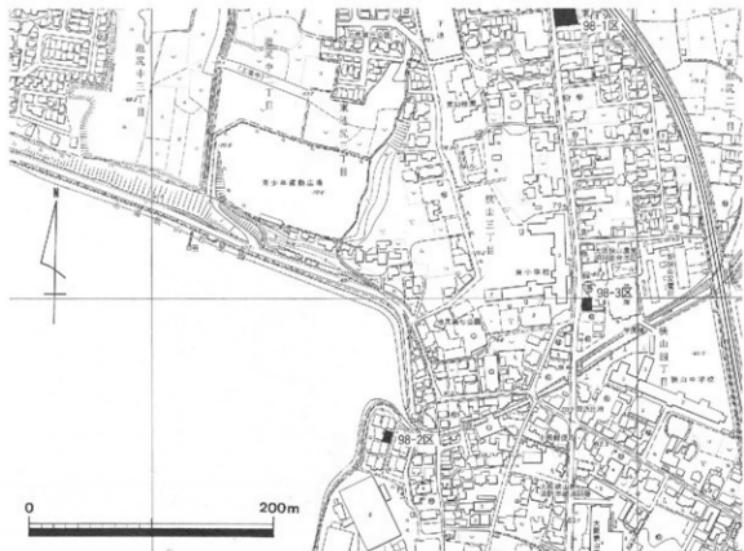
山神社遺跡・狭山藩陣屋跡などの古代・中世・近世の諸遺跡が成立している。池尻城跡では昭和60年に大規模な発掘調査が行われ、南北朝期の城館が検出されている（『池尻城跡発掘調査概要』大阪府教育委員会、1987）。また狭山藩陣屋跡においては建替えや、道路工事とともに発掘調査が継続的に実施されている（『大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書1～8』大阪狭山市教育委員会、1991～1998）。

1. 狹山藩陣屋跡

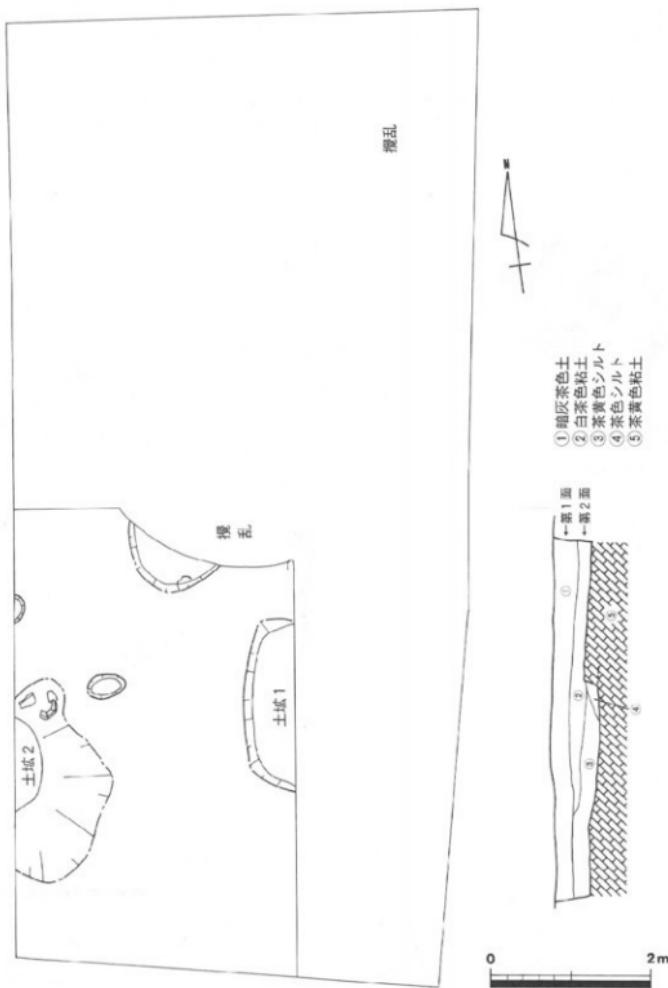
狭山藩陣屋跡は、狭山池東側の中位段丘上に立地している近世の城館跡である。豊臣秀吉によって小田原城を落とされた戦国大名北条氏の末裔が、近世初期にこの地に陣屋を開き、以後明治維新にいたるまでの間、一貫して陣屋が営まれていた。

明治以降、狭山藩陣屋跡における景観は大きく変化し、現在ではほぼ全体が住宅地となっている。現在では、既存住宅の建替えや、小規模な再開発がほぼコンスタントに実施されているため、陣屋跡域内における埋蔵文化財発掘調査件数は減少の兆しをみせない。

こうした小規模な発掘調査の積み重ねによって、少しづつではあるものの、狭山藩陣屋の構成が明瞭なものとなりつつある。



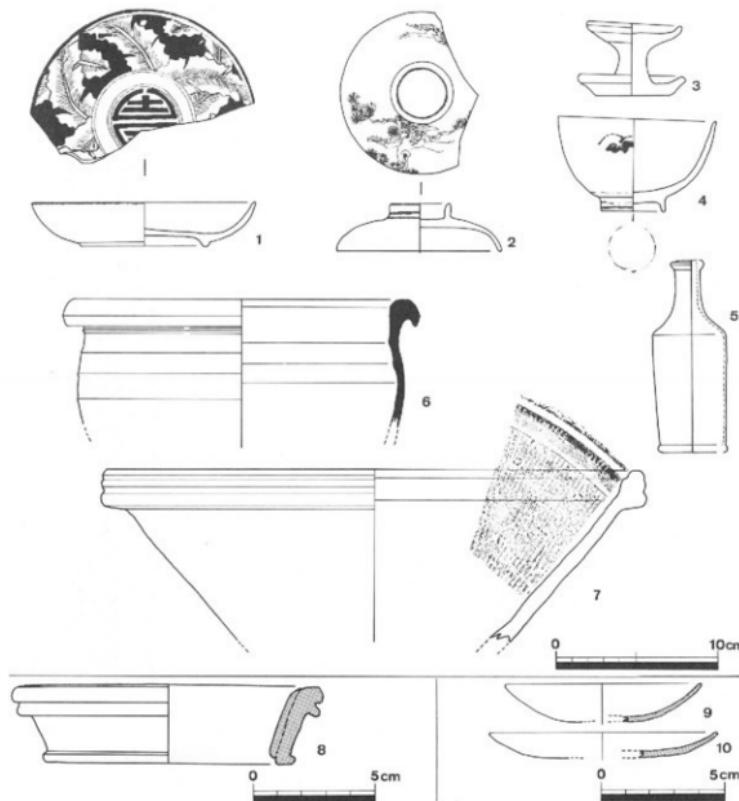
第2図 調査区位置図



第3図 狹山藩陣屋跡98-1区遺構平面図

(98-1区)

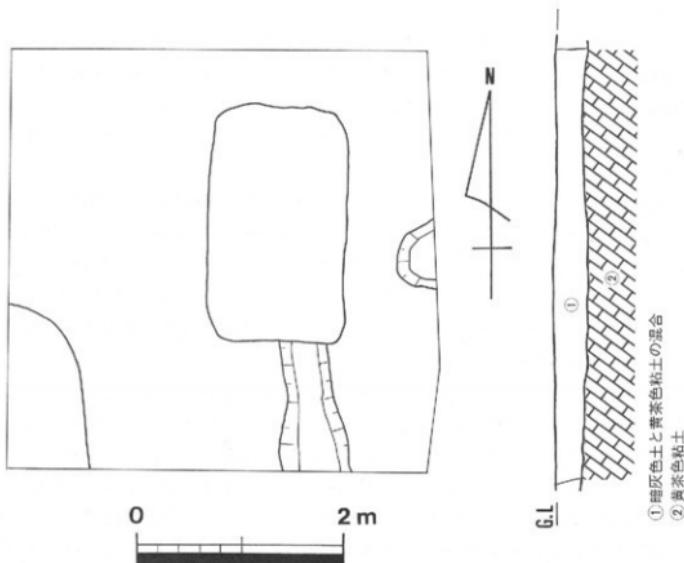
東池尻3丁目に所在する。本調査区は狭山藩上屋敷の大手門付近に所在しており、昨年度に東側隣接地を発掘しているが、この時には上下2面の遺構面を検出し、南北方向に延びる深い溝を検出している。そのため本調査区においても2面の遺構面を想定していた。11m・5.2mの調査区を設定して発掘を進めたところ、北側、東側は建物の基礎などで搅乱が激しく、南西角の5.5m・3.5mの範囲において調査を実施した。現状地盤から15cm下がったところで第1遺構面を検出したが、まったくの無遺構であったために、さらに10cm程度掘削を進め、第2遺構面の調査に移った。



第4図 狹山藩陣屋跡98-1区 遺物

第2遺構面においても遺構の分布はきわめて希薄であったが、二つの土坑を検出した。土坑1は縦210cmの楕円形で調査区内では半分のみが検出されている。また土坑2も縦250cmの楕円形である。土坑1は内部からガラス片などの非常に新しい遺物が出土しており、遺構の時期も近代以降と考えられる。土坑2からも近代以降の新しい遺物が出土しているが、細片ではあるが美濃焼の壺など近世の遺物も出土している。

98-1区から出土した遺物のうち主要なものを第4図に掲載した。4、5、7、8、9、10はいずれも第2層より上の包含層から出土している。4は肥前系磁器の中碗。5はガラスの瓶、用途は不明。7はすり鉢、産地は丹波か。8は七輪の五徳、上方が開き、口縁の外側に突帯が回る。内側には突起があるが残存する部分が少なく何カ所に突起があったのかは不明。9、10は土師質の小皿。ともに内外面の施釉はみられない。1は土坑1から出土。肥前系磁器の五寸皿。内面に芭蕉文、見込部に「寿」字の文様を施す。2、3は土坑2より出土。2は肥前系磁器の中碗蓋。外面に鶴と松の文様を施す。3は美濃系の陶器、機種は灯明受皿。98-1区出土の遺物は近世後期から近代のものも含んでおり、土坑の性格も投棄用のものであったと考えられる。



第5図 狹山藩陣屋跡98-2区 遺構断面図

本調査区の場所は、明治初期に作成された『狭山藩陣屋絵図』によれば「御山」あるいは「南表門」の場所となっており、陣屋の一番南端で、付近には門や濠などの防衛的な施設が存在したと思われる。本調査区より北に50m程度離れた場所で昨年度に発掘調査を実施しているが深い溝などが検出されている（97-3区『大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書8』大阪狭山市教育委員会、1998、所収）。本調査区においては遺構の分布が希薄なことからこれらの防衛施設が所在したのは本調査区よりもさらに北側であると考えられる。

（98-2区）

狭山2丁目に所在する。個人住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。

この場所は近世には狭山藩陣屋跡の下屋敷に含まれていた場所である。1989年に大阪府教育委員会によって行われた隣接地の調査（89-1区『池尻城跡発掘調査概要4』大阪府教育委員会、1990、所収）では、井戸や石列が検出されている。本調査区では建設予定の建物の規模が小さかったために、暫定的に4m四方の調査を設定して発掘調査を実施した。調査区の中心に長さ230cm、幅135cmの攪乱があり、そのほかに溝1本とピット1基を検出したが、それ以外に遺構はなく、また遺物の出土もなかった。

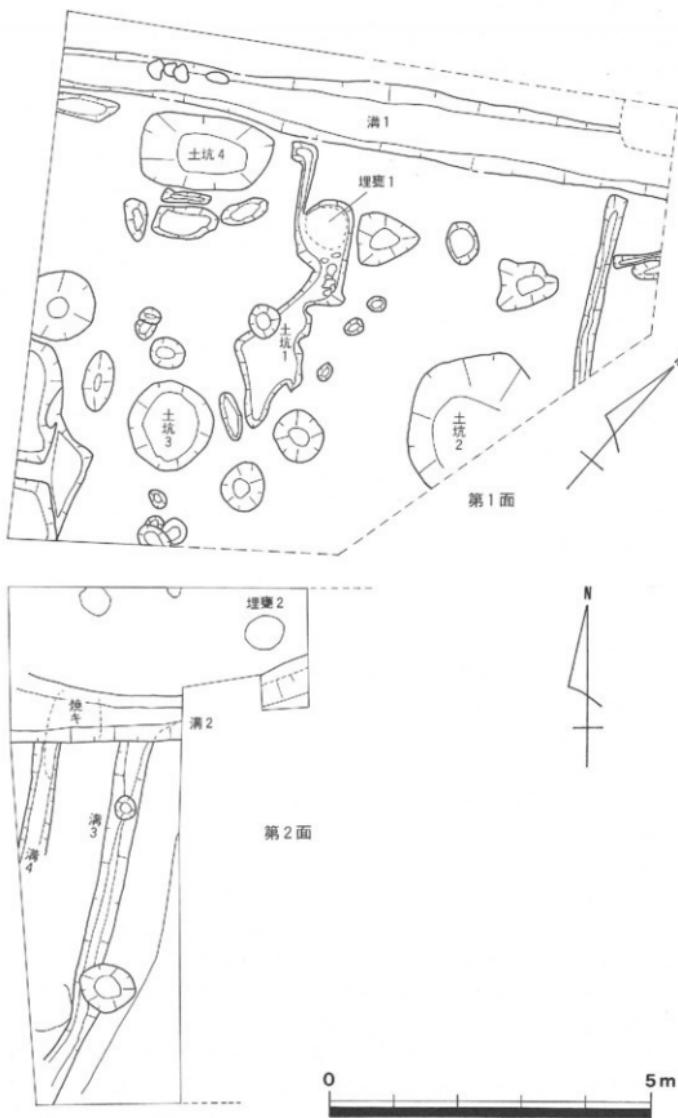
（98-3区）

狭山4丁目に所在する。個人住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。

98-3区は狭山藩陣屋跡の上屋敷の大手筋にそった場所に所在しており、道をはさんですぐ西側には藩主の御殿が所在した箇所である。狭山藩陣屋跡でも中心的な場所をしめていたと考えられる。これまでの発掘調査においてもこの付近は狭山藩陣屋の中でもひときわ遺構、遺物の分布が密な地域である。

発掘調査に先立って調査区の北側でトレチを入れ、遺構面の状況を断面観察したところ、上下2層の遺構面が確認された。第1面は現状地盤から30cm程度の場所にあり今回建設される建物の基礎によって破壊されることが明らかであったために、建物の1階面積にあたる南北7.9m・東西9.6mの範囲について調査を実施することとした。第2面は現状地盤から50cm程度の深さに所在し、基礎の直接的な影響は受けないため、調査区の東側の東西4.5m・南北9.6mだけを調査し、遺構、遺物の状況を把握することとした。

第1面では溝、土坑、柱穴などが検出された。土坑1は長さ4.4m、幅は最大で1.0mで不整形の土坑である。調査区の中心付近に南北方向に延びている。その中をさらに掘りくぼめて直径65cmの漆焼の甕を埋めている（埋甕1）。またこの埋甕の南側では拳大の石が6個かたまつて検出されている。土坑1の埋土内からは平瓦、染付茶碗、唐津焼の皿など多くの遺物が出土している。土坑2は調査区内で2/3程度を検出しただけであるが、直径235cmの円形の土坑である。深さは最大で70cmで、埋土内からキセルや土師皿などの遺物が出土している。土坑3は直径138cmの正円形で、深さは最大で65cmであった。土坑内の埋土から土師質の羽釜片などの遺物が出土している。このほかにも調査区の西端において直径103cmの正円形の土坑が、またそれに接してすぐ南側から調査区内での長さ304cmの長方形の土坑が検出されている。



第6図 狹山藩陣屋跡98-3区 遺構平面図

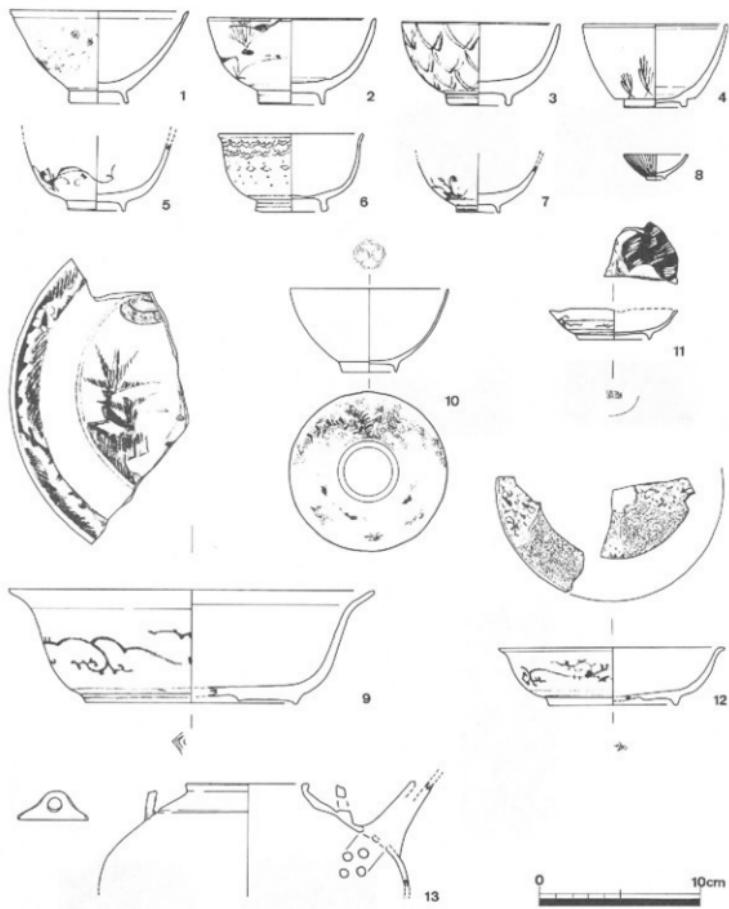
これらの遺構からは遺物は検出されなかった。

また調査区の北端において東西方向に延びる最大幅115cmの溝を検出している（溝1）。長さは調査区内において930cmであった。溝の深さは最大で20cmで一部に拳大の丸石が並んで検出されている。あるいは当初は溝の両端に簡単な石組が存在した可能性がある。この溝はその方向や位置からこの屋敷地の北端を限る機能を有したと思われる。

第1面でみられた遺構は溝1を除いて、配置に規則性がなく、その性格が判然としないが、埋甕遺構がみられ羽釜、茶碗など生活に密着した遺物の出土がみられることから近世後期の屋敷地の住宅部分であったことは間違いない。狹山藩陣屋跡では家臣の住宅は屋敷地の道側に建てられ、背後は菜園などとして利用されていたといわれる。また明治初期に作成され近世末期の狹山陣屋の状況を示している「狹山藩陣屋上屋敷絵図」によれば、調査地付近は特定できないものの宮城氏、内田氏、江馬氏などの屋敷地となっている。これらの家臣はいずれも代々大身の家臣で、家老を勤めることも多かったが、本調査区の第1面遺構はこれら上級の家臣の屋敷地の状況を示すものと思われる。

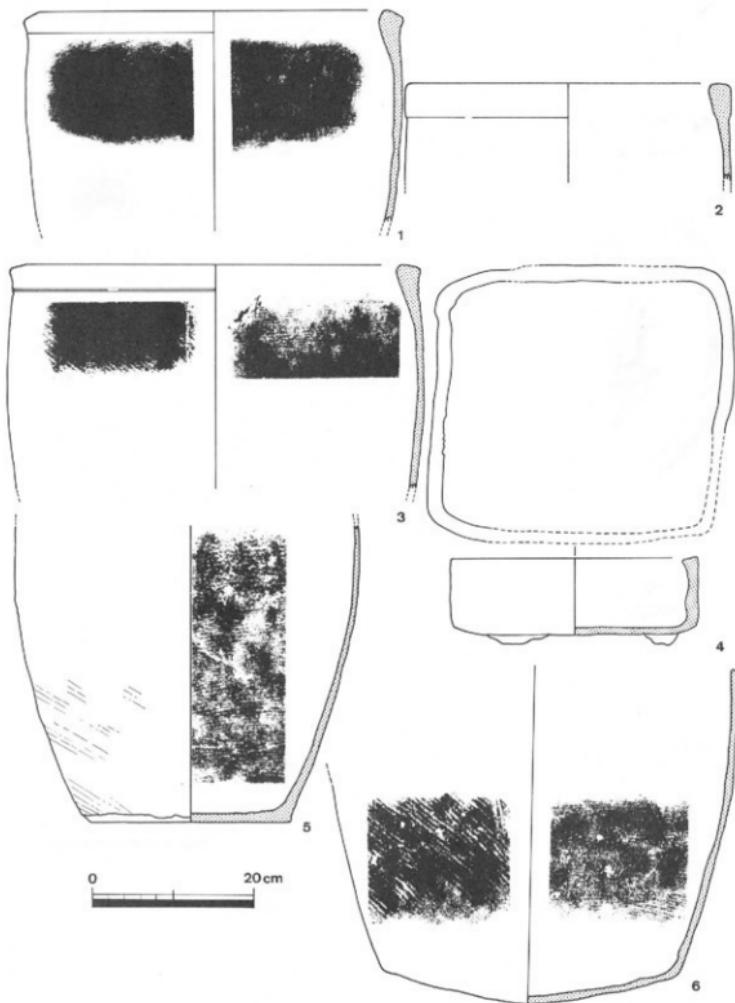
第1面の調査が終了して後、先に述べたように東西4.5mのみを第2面まで掘削し調査を行うこととした。非常に小規模な調査面積ではあるが、調査地内を東西にはじめる溝が検出され（溝2）、それに流れこむ南北方向で並行した2本の溝も確認された（東側から溝3、溝4）。南北方向の溝は現在の大手筋と若干方向がずれていることから、大手筋の側溝などの性格は考えにくい。また溝4と溝2が交わるあたりに長さ145cm、幅85cmにわたって地面が赤化した部分があった。この部分は周囲と同じ高さで掘りくぼめられ土坑化はしていない。地面上にはごく小片ながら木炭が散布しており、またところどころに白骨の小片もみられた。この場所で火葬がおこなわれ、その後きれいに清掃されたものの遺構である可能性が高いだろう。この遺構にともなう遺物などはなく、火葬が行われた時期については不明というしかない。陣屋の建築に先行する遺構である可能性もある。

98-3区より出土した遺物はコンテナ約10箱程度であった。そのうち主要なものを第7図、第8図に掲載した。第7図に掲載したものはいずれも第1面の土坑1から出土した遺物である。1～7はいずれも肥前系磁器の碗。1は平形の碗で外面に梅花文の色絵。2は丸形の碗で外面に染付の扇文、見込部分にチャツ跡残存。3は丸形の碗で外面に網目文。4は杉形の碗で外面に松葉文。5は丸形の碗で外面に唐草文。6は端反形の碗で外面に波文、菱形文、列点文などを施す。7は丸形の碗で草花文を施す。8も肥前系磁器の白磁紅猪口。口縁は直線だが外面に貝殻状のきざみをいれる。9は肥前系磁器の七寸鉢。外面に唐草文、内面口縁に山水文、見込部分に松文を施す。10は肥前系磁器の丸形碗。外面に色絵で萩文を施す。11は肥前系磁器の小皿。口縁はやや波を打ち、外面には唐草文、内面全体に花文を施す。12は陶製の土瓶。外面に灰黄色の釉薬を施す。産地は不明。13は肥前系磁器の五寸鉢。外面には唐草文、内面は不整形に区画され、区画内を相互に網目文と草花文で充填する。第8図には七師質の遺物を掲載した。1、3、5、6はいずれも漆焼の甕で、6が第2面より出土。残りは第1面の遺物である。5、6は地面に埋められた状態のいわゆる埋甕の状態で出土。4は試掘用のトレンチ内から出土した火舎で平面形はほぼ正方形。4箇所に脚がつく。



第7図 狹山藩陣屋跡98-3区 遺物(1)

遺物は第1面のものが大半で第2面のものはごくわずかであった。器種は茶碗や皿などの日常雑貨を中心であったが、漆焼の壺などが数点みられたのが注目される。

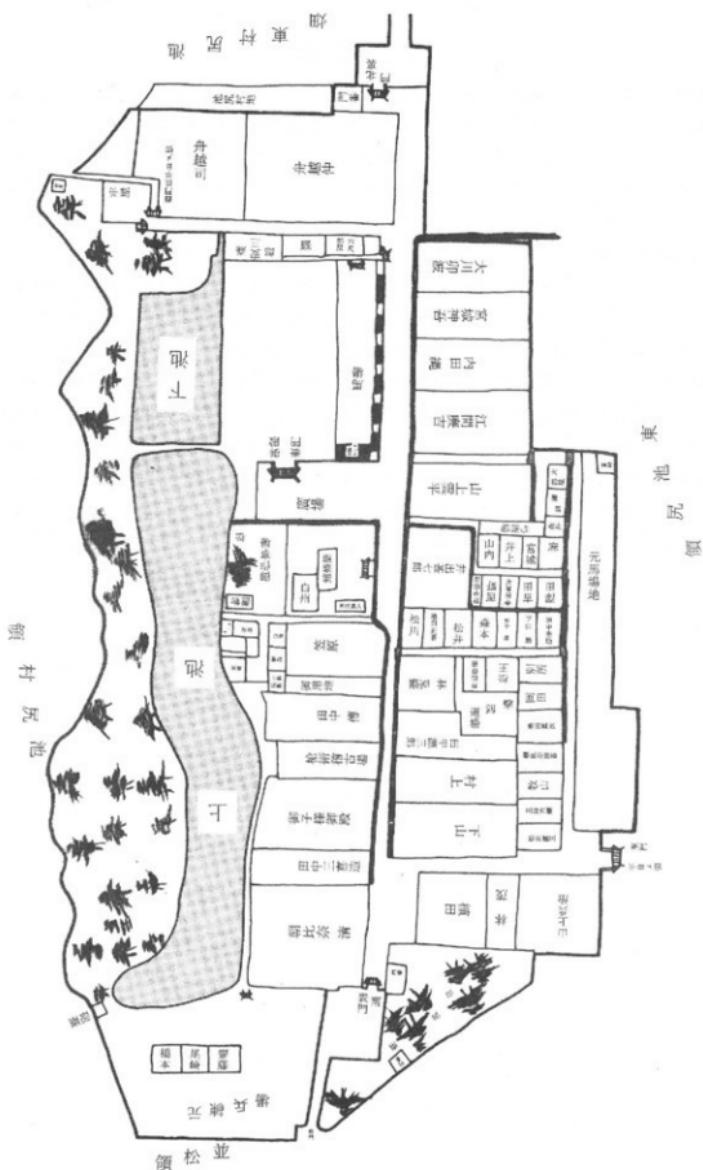


第8図 狹山藩陣屋跡98-3区 遺物(2)

2.まとめ

本年度の調査のうち、遺物、遺構を検出することができたのは狭山藩陣屋跡における調査のみであった。これらの調査は調査面積も狭く、また建物の基礎との関係から調査できる深さも限られていたために、得られた情報も多くはない。しかしながら毎年積み重ねられている調査成果をあわせれば、このような小規模発掘調査ではあっても、次第に地域の歴史像は明確な形をなしてくると考えられる。

狭山藩陣屋跡98-1区においては第1面で比較的上層の家臣の住宅と思われる箇所を調査し、第2面においては火葬の痕跡を検出している。これまでの狭山藩陣屋では近世以前の遺構、遺物を検出することは比較的まれであったが、平成元年度に大阪府教育委員会が下屋敷内で実施した調査では直径5m程度で内部に石が充填された土坑が2基検出されており、墓坑の可能性が指摘されている（『池尻城跡発掘調査概要』大阪府教育委員会、1990）。陣屋の建設以前には散在した形で墓地が分布した可能性が考えられよう。また98-3区では比較的新しい土坑を検出したのみであったが、今年度この調査区の隣接地では府道の工事に伴う発掘調査を大阪狭山市教育委員会が実施している。その結果でもやはり98-3区付近では遺構の分布が少なく、北側にいくほど遺構、遺物が密になる傾向がみられた。先にも述べたようにこの付近には陣屋の大手門が存在していたが、その内と外では遺構の分布状況に大きな違いがあることが指摘できよう。



第9図 「狭山藩陣屋上屋敷絵図」 トレース図

図版

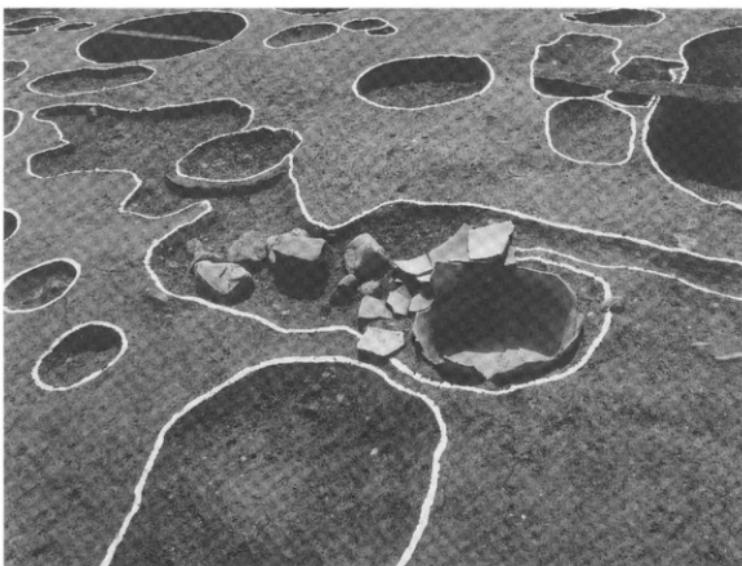
図版1 狹山藩陣屋跡付近航空写真







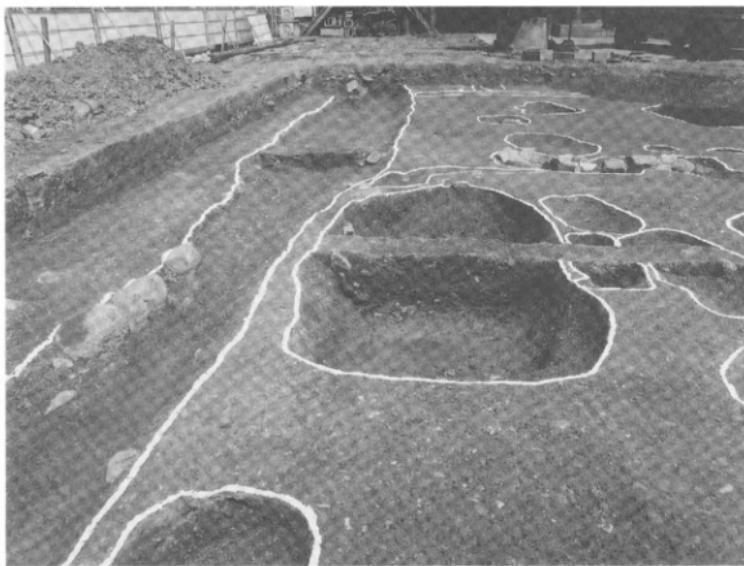
a. 第1面遺構（南側）



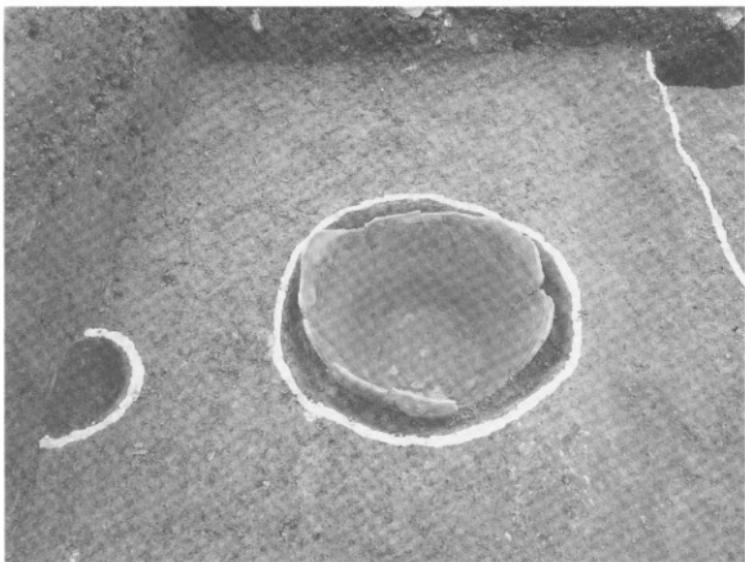
b. 第1面遺構 埋甕



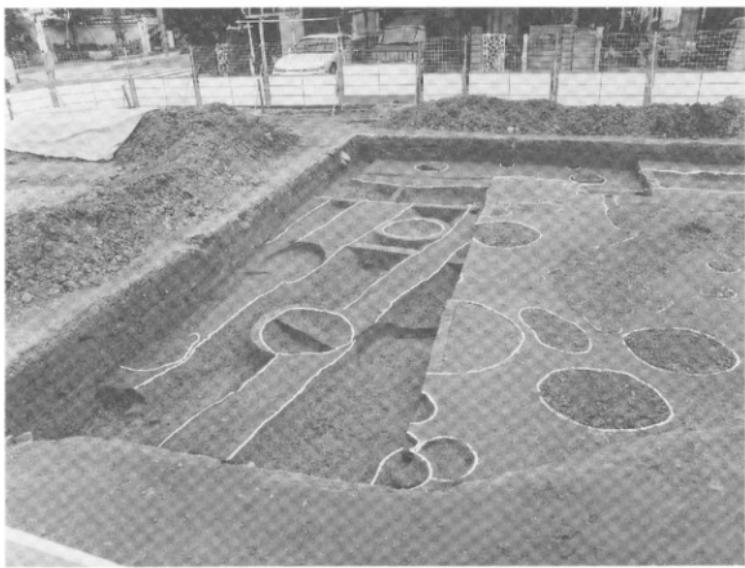
a. 第1面遺構（全体）



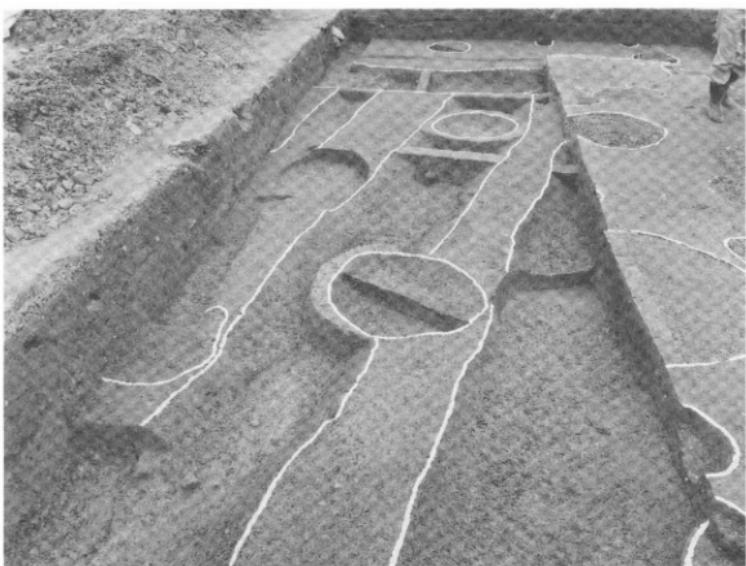
b. 第1面遺構（北側）



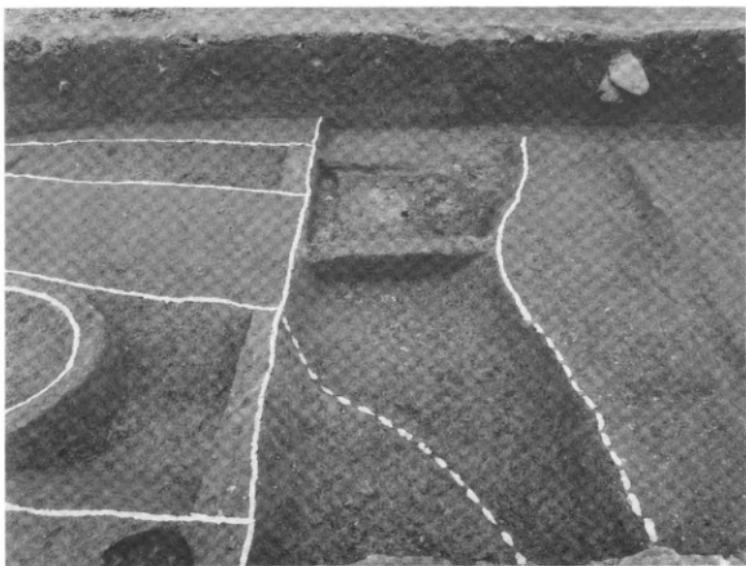
a. 第1面遺構 埋甕



b. 第2面遺構（全体）

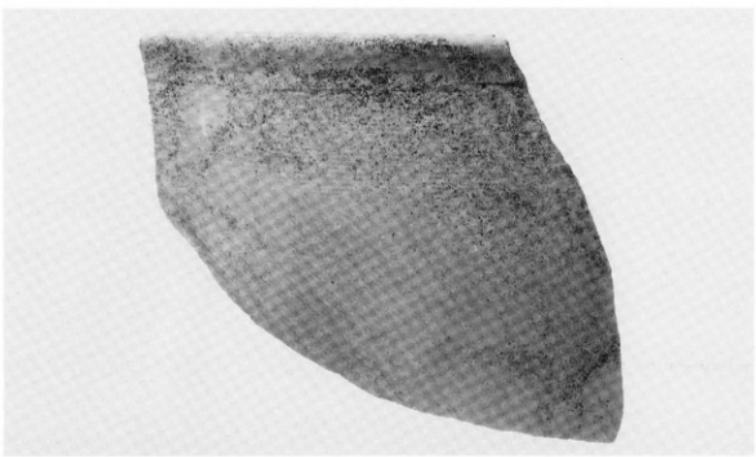
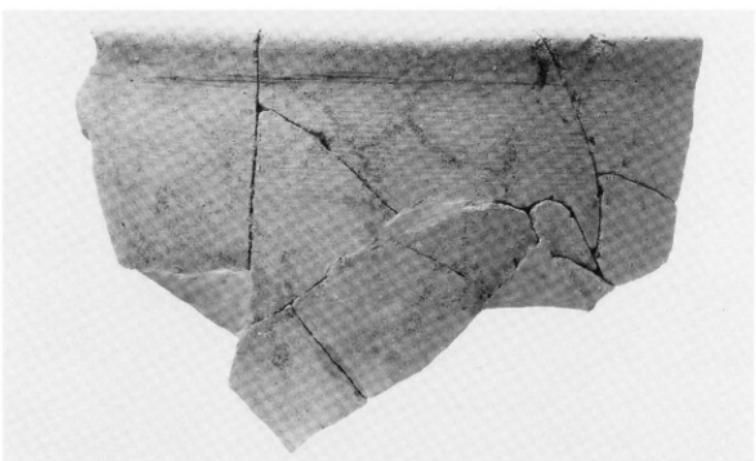
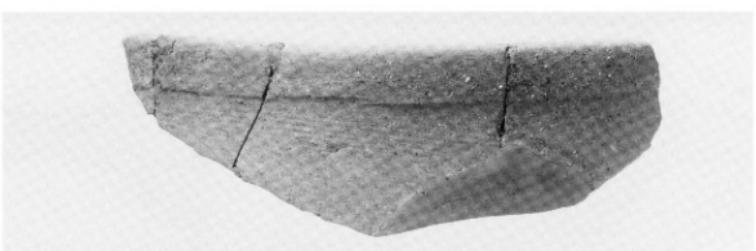


a. 第2面遺構 溝3・溝4



b. 第2面遺構 焼土





图版9 狹山藩障屋跡98—3区



大阪狭山市文化財報告書18

大阪狭山市遺跡群
発掘調査報告書 9

発行日 平成11年3月31日

発 行 大阪狭山市教育委員会

印 刷 橋本印刷

